

- 生活支援  見守り  協議体
- 買物支援  配達  その他
- 移動支援  居場所づくり

## 23 誰もが活躍できる地域（薩摩川内市亀山地区 小倉自治会）

薩摩川内市 高齢・介護福祉課

### 地域の概要



薩摩川内市亀山地区。小倉自治会は、南九州自動車道より西側に位置し、人口184人、高齢化率56.1%。2人に1人が高齢者。



### 取組のきっかけ

包括支援センターより、買い物に困っている方（Aさん）がいるので、地域で解決できないかなといった相談がきっかけ。Aさんは、独り暮らしで、最近物忘れが出てきており、買い物に行くことが困難になっている。県外の娘さんも、心配している。本人はできることはできるだけ自分でしていきたいと考えている。亀山地区担当の生活支援コーディネーターが相談を受け、地域の方にも相談した。

### 取組の目的

- 買い物支援
- 集いの場としての拠点づくり
- 見守り支援
- 役割づくり

### これまでの経緯



年・月	出来事
令和4年	包括支援センターより、買い物に困っている方の相談あり
	有償ボランティアの支援を検討するため、自治会長、世話役さんに相談
	小倉自治会は高齢化率も高く、ボランティアでの支援は難しい、他にも買い物に困っている人がいるのではないかと、アンケート調査
	話し合い（自治会長、世話役、2層SC） 個別課題ではなく、地域課題としてとらえよう 移動販売車の活用、拠点づくりにしてはどうか
	役割の確認
	生協コープかごしまさんからの説明
	生協コープかごしまさんの移動販売車スタート

### 活動の概要

薩摩川内市小倉自治会と生協コープかごしま、社会福祉協議会（SC）が協働し、移動販売による買い物支援を実施している。

小倉自治会：買い物に困っている人への声かけ。

Aさん宅が拠点の移動販売について広報。

社協（SC）：生協コープかごしまと自治会とのマッチング

生協コープ：移動販売の日程調整。

〔頻度・利用人数・利用者負担〕

- 週1回、Aさん宅の庭を拠点にしている。
- 近所の方10名前後、集まって声を掛け合っている
- 店舗と同じ値段で購入でき、事前に注文もできるため、重いものなどを頼んでいる方がいる

〔活動に関わった人・団体〕

Aさん、Aさんの娘、生活支援コーディネーター、小倉自治会、サロン担当者、生協コープかごしま



### 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- つながり発表会での活動の周知
- SCと定期的な情報共有

〔SCとしての役割〕

- 包括との連携
- 小倉自治会との連携
- 生協コープかごしまとのマッチング
- 買い物に困っている方への調査
- Aさん家族の思い調整
- 集いの場、見守り活動などの効果の見せる化



### 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 買い物・移動に困っていると一人の困りごとが、他にも困っている方がいるとすることで、自治会が課題解決できた。
- 集いの場としての拠点となり、独居や認知症の方の見守り活動。
- Aさんが自宅に移動販売がくるため、移動販売車の誘導をし役割をもつことができた。

〔課題〕

自治会が、川を挟み分かれており、距離があるため、川の向こう側の方への支援が行き届いていない。

- 生活支援  見守り  協議体
- 買物支援  配達  その他
- 移動支援  居場所づくり

## 24 「地域の中でつながり、支え合う斧洲」(斧洲地区コミュニティ協議会)



薩摩川内市高齢・介護福祉課

### 地域の概要



薩摩川内市の中北部（東郷地域）、川内川下流域に位置している。字域の北方には東郷町鳥丸、南方には楠元町、白浜町、東方には東郷町南瀬、山田、西方には田海町がそれぞれ接している。人口は3,319人、世帯数は1,480世帯、高齢化率32.5%、面積は15.23平方キロメートル。



### 取組のきっかけ

地域における高齢者人口の増加や、一人暮らしの高齢者の増加に伴い、孤立や見守りといった課題が顕在化してきた。これにより、地域住民やボランティア、コミュニティ福祉部、関係機関が協力して効果的な支援につなげるための情報共有や支え合う体制を構築する必要があった。

### 取組の目的

- 見守り、生活支援のネットワークづくり
- 地域住民同士の支え合いづくり
- 外出のきっかけづくりと生きがいづくり
- 地域関係者、団体との情報共有



### これまでの経緯

年・月	出来事
平成23年3月	斧洲地区地域福祉事業推進にかかわる連絡会を社協事務局内に設置
平成28年10月	斧洲地区高齢者等福祉ネットワーク会議と名称変更し事務局を斧洲地区コミュニティ協議会内に設置
令和6年4月	斧洲地区高齢者等福祉ネットワーク全体会議開催（事業の概要説明、支え合い事業等について）
6月	〃 専門部会開催（支え合い事業について、担当者会議の日程調整について）
7月	〃 地区担当者会議開催（地域の見守り支援者等の情報共有）
7月	〃 地区全体サロン「茶のんけいっが」開催
7月	〃 専門部会開催（外出支援全体サロン実施報告など）
8月	〃 鎮守の杜ベタンク大会開催
令和7年1月	〃 地区全体サロン「茶のんけいっが」開催

### 活動の概要

斧洲地区コミュニティ協議会が「斧洲地区高齢者等福祉ネットワーク会議」と称し組織化している。誰もが住み慣れた地域で互いに支えあい安心して健やかに暮らし続けることができるよう、地域の中でつながり支えあう活動として、地区を8つのブロックに分け、生活支援、お出かけ支援に取り組んでいる。

今後も、更に地域の人たちが顔の見える関係になり、お互いを見守り、支援が継続的にいけるよう連携を図っていく。

#### 〔活動に関わった人・団体〕

自治会長、民生委員・児童委員、健やか支援アドバイザー、いきいきサロン代表者、高齢者クラブ単位代表者、在宅介護支援センター、村づくり推進員、あすなる会、社会福祉協議会東郷支所



### 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

#### 〔SCとしての役割〕

- 福祉ネットワーク会議全体会議へ参加し情報共有を行う
- 専門部会へ参加し情報共有を行う
- 地区担当者会議へ参加（自治会単位）し情報提供及び共有
- お出かけ支援行事への参加及び支援
- 有償ボランティアとの連携
- 他地区へ、斧洲の取り組みを紹介

#### 〔行政担当者としての役割〕

- SCとの定期的な情報交換
- つながり発表会での活動周知
- SCの活動フォロー、内容把握
- 自治会ニーズ把握



### 現時点での到達点（効果・課題など）

#### 〔効果〕

見守りや話し相手など地域の高齢者の孤独防止や生活課題などに地域の人たちが顔の見える関係になり、お互い見守り、つながり、支えあう活動につながっている。

#### 〔課題〕

居場所の1つとして地区全体サロンを行っているが、周知方法を検討していく。また、生活支援においては支援を必要とする人の増加に対応できるように地域の支え合いの輪を広げて行く必要がある。

- 生活支援  見守り  協議体
- 買物支援  配達  その他
- 移動支援  居場所づくり

## 25 地域のヒート（祁答院町藺牟田地区 湯之元自治会）

薩摩川内市 高齢・介護福祉課

### 地域の概要



薩摩川内市祁答院町の藺牟田地区。藺牟田池を囲む山間。湯之元自治会は、人口は906人、世帯数は476世帯。高齢化率は50.2%、藺牟田地区の中でも一番高い。



### 取組のきっかけ

30年前に、青年、壮年部の男性の集まりがなかったので、まずは飲み会を月1回しよう！旅行に年1回行こう！と火曜日に集まりだしたのがきっかけ。その後、「火曜倶楽部」という名前を付けて活動を開始。集まりの中で、地域の困りごとが聞かれるようになり、ボランティア活動を始めることになった。

### 取組の目的

- 集いの場
- ボランティア活動
- 地域活性化
- 世代間交流



### これまでの経緯

年・月	出来事
平成5年ごろ	青年部と壮年部（20代から50代）の集まりがなかったので、飲み会を月1回しよう！
	年に1回は旅行に行こう！
	火曜日に集まることより、「火曜倶楽部」と名付けて、集まるようになった。
	おそろいのジャケットを作った。
	毎月第3日曜日、足湯公園の清掃をするようになった。
	年末の年越しイベントのために、そばをつくることになった。
	土壌作りから行い、そばの種をまき、種から育てた。
	高齢者宅の草払いなどのボランティア活動を始めた。
	55歳が定年だったが、70歳まで引き上げた。（高齢化）そばつくりのコストを考え、一から育てることをやめた。
令和3年12月末	そばつくりを再開。帰省している人にも、そばをふるまう。

### 活動の概要

毎月第3日曜日 足湯公園の清掃  
 毎月1回の定例会＆飲み会  
 年1回の旅行  
 年末に年越しそばのふるまい  
 ボランティア活動（高齢者宅の草払い、ゴミを集める）  
 敬老会での余興



### 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

#### 〔行政担当者としての役割〕

- つながり発表会での見える化、見せる化、共有していく
- SCと定期的な情報共有

#### 〔SCとしての役割〕

- 既存のボランティア活動を発見し、意識化、見える化。見せる化し共有する
- 「火曜倶楽部」との活動を広報
- 「火曜倶楽部」の活動している方々の思いをつなげていく
- 住民との関係を築く

### 現時点での到達点（効果・課題など）

#### 〔効果〕

- 男性の集いの場となり定期的に集まって活動している
- 時代に合わせて変化する柔軟性がある
- 定例会と飲み会があり楽しみができています
- 地域の声を拾い、活動につなげることができている

#### 〔課題〕

- 活動メンバーの高齢化
- メンバーが減り続けている
- 活動の計画

- 生活支援  見守り  協議体
- 買物支援  配達  その他
- 移動支援  居場所づくり

## 26 地域の未来のため、私たちがはじめたこと（上甕 中野自治会）

薩摩川内市 高齢・介護福祉課

### 地域の概要



薩摩川内市の西約30kmに位置する甌島。令和2年に上甌と下甌をつなぐ甌大橋が開通し、甌は一つになりました。  
上甌島は、人口2,000人で減少し続けており、高齢者率56%、島民同士で支え合う地域。



### 取組のきっかけ

薩摩川内市では「まるごとささえ愛事業」で、生活支援コーディネーターと支え合い推進員が「いつまでも自分たちの町で生きがいを持って安心して暮らせるまち」を目指して、地域の困りごとやあったらいいなといった思いを皆さんと一緒に考え取り組んでいる。

地域支え合い推進員が、サロン訪問をしたとき、「買い物に便利なバスがあったらいいな」といった声を聞き、買い物など移動の不便があることを知った。

### 取組の目的

- 買い物が困難な方への支援
- 新たな集いの場
- 担い手の役割づくり
- 高齢者クラブの活性化



### これまでの経緯

年・月	出来事
令和4年4月19日	支え合い推進員が上甌地区での地域取材時に「日常生活での困りごと」について調査。「バスでの買い物などの移動について困っている」という声が多く聞かれた
令和4年4月19日	支え合い推進員が、中野地区のふれあいサロンを訪問した際にも、買い物の移動についての困りごとをきく
令和4年6月1日	上甌高齢者クラブ会長会（参加者：各高齢者クラブ会長5名、社協3名） 内容：推進員が聞いた地域の困りごとを紹介（買い物支援、入退院時の島内送迎） 結果：中野長寿会の会長から、買い物支援に取り組みたい意向があった
令和4年6月13日	第1回ドライブサロン実行委員会 役割分担、費用、声掛けについて決定、お試し日7月1日・8日
令和4年7月1日 令和4年7月8日	お試しドライブサロン1回目、2回目（両日利用者6名）
令和4年7月11日	第2回ドライブサロン実行委員会 お試し時のアンケートをふまえてドライブサロンの実施が決定
令和4年7月23日	中野役員会（ドライブサロンの実施の説明）
令和4年8月6日	中野ドライブサロン開始

### 活動の概要

#### ドライブサロンのスタート

車は、社会福祉協議会の車両貸し出し事業を利用し、ドライバーは2人で交代制。第1・3土曜日9時から11時に自治会の広場に集合し、島唯一のスーパーまで連れていく。

買い物を楽しまれ、帰りは荷物がいっぱいになる。

当初、利用料は無料であったが、令和5年度から200円の利用料とし、運行をしている。令和4年度実績は延べ回数16回、延べ利用者120名、利用平均7.5名。



### 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

#### 【行政担当者としての役割】

- SCや支え合い推進員との定期的な情報共有
- 薩摩川内市でつながり発表会にての発表。事例の見える化・見せる化

#### 【SCとしての役割】

- サロン訪問による聞き取り調査の実施
- 困りごとを把握した後、高齢者クラブと課題共有
- 中野自治会と課題解決に向けて話し合いの場に寄り添う
- 事例発表にて活動の周知



### 現時点での到達点（効果・課題など）

#### 【効果】

- 買い物困難者の買い物支援となった。
- 皆と会って一緒に買い物に行く集いの場となった。
- 外出の楽しみとなり、交流により笑顔が増え、生きがいになっている。
- 着ていく服を考え、情報交換の場となり、刺激のある日常となり介護予防に。

#### 【課題】

- 買い物だけではなく移送支援についても検討している（銀行や病院など）
- 現在月2回土曜のみの運行だが、平日の運行についても検討

- 生活支援  見守り  協議体
- 買物支援  配達  その他
- 移動支援  居場所づくり

## 27 手打地区 麓自治会「ふもとサロン」

薩摩川内市 高齢・介護福祉課



### 地域の概要



下甌町手打地区は、甌島列島の下甌島の最南端に位置しており、江戸時代には甌島郷の地頭の居館である地頭仮屋が置かれていた。北方には下甌町青瀬、下甌町片野浦が接しており、他方には東シナ海が広がっている。



○下甌地区  
人口 1,402名  
世帯数 950世帯  
高齢化率 51.1%

○麓自治会  
人口 210名  
世帯数 130世帯  
(薩摩川内市HPよりR7.6.30時点)



### 取組のきっかけ

高齢者が増えてきたことからお互いの安否確認をきっかけに始まった。高齢者クラブの活動が主であったがクラブの活動への参加が難しくなってきた方でも集まれる場所として開催している。

### 取組の目的

- 地域の集いの場
- 健康増進
- 活動を楽しみ地域住民が交流する
- 情報交換
- 見守り



### これまでの経緯

年・月	出来事
平成21年4月～	集まるきっかけとして「お茶のみ会」立ち上げ
令和5年4月～	名称変更「ふもとサロン」として再始動 代表者の交代
令和6年	地域とのつながり活動開始 情報交換やお互いの安否確認ができる場となる。
令和6年	ふれあい花園活動
令和6年	小学校訪問交流
令和6年	頭の体操や普段接することの少ない警察や学校の先生等を招いてのお話会の実施

### 活動の概要

- 現在  
月2回サロン実施 (第2・4の水曜日)



### 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

#### 〔行政担当者としての役割〕

- SCの個人相談
- 健康教育や健康相談
- SCとの定期的な情報交換
- つながり発表会での活動周知
- SCの活動フォロー、内容把握
- 自治会ニーズ把握

#### 〔SCとしての役割〕

- サロン参加者の困りごとの把握や相談
- 地域住民へサロン活動の周知
- 住民同士の理解があることで認知症になっても参加できる場所がある大切さを伝える。
- 介護予防もだが、まず楽しむことがサロン活動継続につながることを伝える
- 地域資源の情報を地域へつなげる

### 現時点での到達点 (効果・課題など)

#### 〔効果〕

- 活動を楽しみ、地域住民が交流する場
- 情報交換の場
- 外出のきっかけや生きがい
- 健康増進
- 見守りの場

#### 〔課題〕

- 役員の担い手不足
- 参加者の高齢化
- 次世代への継承
- 男性の参加者が少ない

- 生活支援  見守り  協議体
- 買物支援  配達  その他
- 移動支援  居場所づくり

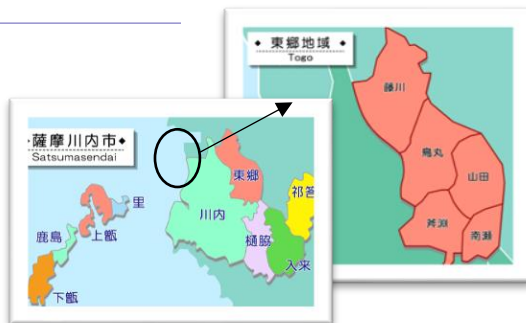
## 28 本俣自治会のささえ愛（住民主体の助け合い）

薩摩川内市 高齢・介護福祉課

### 地域の概要



薩摩川内市東郷町の藤川地区。  
阿久根市との境にある、本俣自治会。  
世帯数は17世帯、全住民で27名。  
1世帯以外は全員高齢者、70歳以上の方が70%を占めています。



### 取組のきっかけ

30年以上続く本俣のサロン「本俣かじかの会」。  
サロンを担当しているMさんが、「買い物が大変になってきた」と東郷担当の生活支援コーディネーターに相談したことがきっかけ。

### 取組の目的

- サロンの継続
- 自治会全体で支え合う
- サロンだけではないつながり
- 私たちはこれからもここで生きる
- 見守り活動
- 孤食防止
- 移動販売が集いの場



### これまでの経緯

年・月	出来事
令和3年8月	ふれあい・いきいきサロン「本俣かじかの会」を生活支援コーディネーターが訪問。
令和3年9月	東郷地域のサロン代表者が集まる会「サロン連絡会」で、「本俣かじかの会」代表Mさんから、「サロンの際に食事を提供しているが、買い物が大変になってきた、サロンが継続できない」と相談を受けた。
令和3年10月～12月	・生活支援コーディネーターが毎月サロンに参加し、参加者から話を伺い現状把握。
	・生活支援コーディネーターから、サロン代表者のMさんが相談した内容について、本俣自治会長兼民生委員のTさん、健やか支援アドバイザーのRさんへ相談（TさんとRさんは夫婦）。
令和4年1月～	サロン代表者Mさんの悩みであった、買い物は、参加者でもあるRさんが担うようになり、サロン代表は、そのままMさんが継続することとなった。 月1回のサロンは役割を分担し継続することになった。

### 活動の概要



→ ●自治会副会長のNさんが自治会の配布物の配布が困難。運転ができるRさんが配布を手伝い。



- ↑役割を分けながら、サロンの継続
- 買い物 → Rさん（運転可）
  - 調理 → Nさん（そのまま）
  - サロン代表 → Mさん（そのまま）
- 活動は、脳トレ、おしゃべりや食事。  
みんなで役割分担をしながら工夫して

お付き合い歴30年以上  
平均年齢♡85歳♡  
最高年齢♡94歳♡

**サロン以外でも、強くつながり助け合う**



← ●年2回の清掃作業。本俣自治会長Tさんは、作業の1か月前に本俣自治会出身者に協同を求める手紙を送付。毎年多くの出身者が地元が集まり、地元住民と出身者との交流の場となっている。



↑ ●『結いの郷 ふれあい館』出身者が帰省した際の集いの場。故郷である本俣と出身者をつなぐ。

← ●炭窯を作り、炭焼きを数年ぶりに開催！

### 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

- |   |  |
|---|--|
| <p>〔行政担当者としての役割〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2層SCと情報共有</li> <li>● 本俣の活動について広報</li> </ul> | <p>〔SCとしての役割〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● サロン代表者との連携</li> <li>● 本俣自治会の方のつながりを発見、意識化、見える化、見せる化、共有</li> <li>● サロンの調整</li> </ul> |
|---|--|



担当SC：Y

### 現時点での到達点（効果・課題など）

- |  |   |
|--|---|
| <p>〔効果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 見守り・見守られ</li> <li>● 孤食防止</li> <li>● 役割を持ち、生きがい活動となっている</li> </ul> | <p>〔課題〕</p> <p>現時点で、60代世帯が本俣自治会を支えているが、5年10年後は人口減少や高齢化により現状を維持できない。</p> |
|--|---|

## 地域の概要



永利地区は三方を山に囲まれた地形が特徴で市立少年自然の家てらやまんちや薩摩川内市せんだい宇宙館など豊かな自然と歴史に育まれた魅力的な地域です。



## 取組のきっかけ

定年を迎えた男性たちがこれからをどのようにすごしていくか考えていた時に同じ趣味を通じてコミュニケーションを図り交流することを目的に取り組みを開始。

## 取組の目的

- 定年を迎えた男性の生きがいづくり
- 同じ趣味を持つ仲間とのコミュニケーションの場
- 野菜づくりのノウハウの伝達
- 見守りや支え合いの場

## これまでの経緯

年・月	出来事
平成24年	定年を迎えた男性たちにより、野菜づくりグループ「青葉会」の結成 店舗で育てた野菜の販売
平成25年	活動なしで26年度へ
平成26年	再スタート 青葉会会員が夏野菜の苗の売り上げを寄附。それぞれの畑で栽培
平成30年	懇親会や忘年会を開催 ※定期的に茶話会なども開催
令和4年	夏野菜の苗の準備を個人で行うようにする

## 活動の概要

**【活動内容】**  
種を植え、苗まで育てたものをそれぞれの畑に持ち帰り育てている。畑の状態を気にかけて合うことでコミュニケーションが図られ、アドバイスをし合いながら活動している。その他メンバーの自宅に集まり、茶話会や昼食会、忘年会など行い、思いを分かち合っている。

**【活動人数】** 10名

**【参加条件】** 特になし。自治会外の方も参加可能。



野菜づくりの先生  
北原さん

青葉会の母  
つや子姉さん

高齢になり脱退を考えたこともあったが、みんなに誘われ足を運び続けている。楽しみの場になっている。

野菜も人と同じ「生きている」という気持ちで見ると自然とどう接していけばよいかわかる。



**【活動に関わった人・団体】**

民生委員児童委員、健やか支援アドバイザー、地域住民、生活支援コーディネーター、支え合い推進員

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

**【行政担当者としての役割】**

- 「みんなのつながり発表会」の開催にて、趣味活動を通じた集まりの場から生まれた助け合いの様子を見える化、見せる化。
- SCと定期的な情報共有

**【SCとしての役割】**

- 青葉会の活動を通じてそれぞれの役割や効果を伝え、認識してもらった
- 地域の相談、ネットワーク構築



## 現時点での到達点（効果・課題など）

**【効果】**

- 会員同士の支え合いの場
- 会員だけでなく、家族同士のつながり
- 生きがいややりがい
- 活動自体が介護予防

**【課題】**

- 会員の高齢化
- 若い世代とのつながりづくり

- 生活支援  見守り  協議体
- 買物支援  配達  その他
- 移動支援  居場所づくり

## 30 湯田地区～誰もが気軽に集まることのできる場～ (湯田地区コミュニティ協議会)

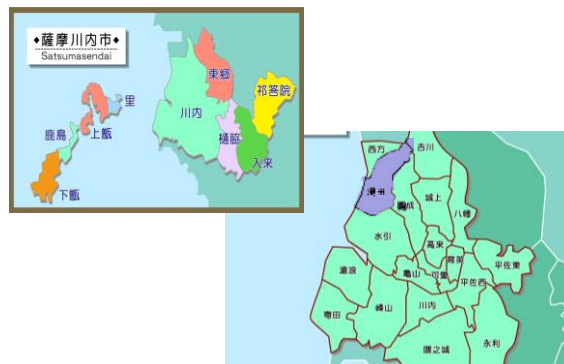
薩摩川内市 高齢・介護福祉課

### 地域の概要



湯田地区は薩摩川内市の北西部に位置しており、海・山・川に囲まれている。日本名湯100選に選ばれている川内高城温泉がある。

人口410人、266世帯、高齢化率56.0%の地域。



### 取組のきっかけ

湯田地区は、コロナの影響で集いの場が減少。湯田地区の中心にある湯田コミュニティセンターに、『気軽につながる場』ができれば、人と会って話をする機会が増え、楽しみや生きがいにつながるのではないかと中村コミュニティ主事とSCの話し合いが活動きっかけとなった。

### 取組の目的

- 地域の中心にある、湯田地区コミュニティセンターを集いの場の拠点とする
- 誰でも気軽に行くことができる集いの場の作成
- これからも安心して湯田地区で住み続ける為に、情報共有の場の設定
- 集いの場が楽しみ・生きがいになるようにしていく



### これまでの経緯

年・月	出来事
令和5年4月	湯田地区コミュニティ協議会主事と気軽集まれる場について協議する。
令和5年6月	スマホ講座開催(主事の声掛けにより、興味がある方、各自治会長などが参加する)
令和5年8月	スマホ講座の際に地域の見守りや支え合い・つながりについて話しをする。
令和5年9月	湯田地区初めての住民支え合いマップを開催。全7自治会開催へ。
令和5年10月	スマホ講座終了。集いの場の継続へ。形を変化して開催。(はんとけん体操実施)
令和5年12月	はんとけん体操開催。その後、毎月開催。
令和6年6月	湯田地域食堂開催
令和6年7月	湯田地区園芸サロン開催。コロナ禍により中止していたが、数年振りに開催。
令和6年9月	はんとけん体操や地域食堂から参加者の得意なことから新たな折り紙・手芸サロン立ち上げ。
令和6年9月	各自治会の民生委員・健やか支援アドバイザーとの意見交換会開催(協議体)

### 活動の概要

薩摩川内市湯田地区コミュニティ協議会と協議をして活動を進めている。集いの場に参加して頂いた方々からの声を集めて、活動から活動へ繋がっている。

参加者からの声や日頃の見守り活動の様子を湯田地区全7自治会の民生委員・健やか支援アドバイザー・行政・社協が参加して協議して湯田地区がいつまでも住みやすい町にしていく。

今後は、様々な活動が継続していけるように、湯田地区コミュニティ協議会とも協議をしていく。

〔活動に関わった人・団体〕

生活支援コーディネーター、市町村、社会福祉協議会、湯田地区コミュニティ協議会、民生委員、健やか支援アドバイザー



### 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 「みんなのつながり発表会」の開催にて、見える化、見せる化。
- SC活動のフォロー
- SCと定期的な情報共有

〔SCとしての役割〕

- 湯田地区コミュニティ協議会の主事との連携
- 地域の活動につながるように相談対応
- 湯田地区の方々とのネットワークの構築



### 現時点での到達点 (効果・課題など)

〔効果〕

たくさんの集いの場が出来て、コミュニケーションをとることで笑顔が増えた。参加者が次回の開催日を楽しみしており、生きがいにつながっている。

〔課題〕

たくさんの方々に参加していただけるような周知方法。現在は、出張サロン等を行い活動を知って頂くことも行っている。また活動を続けていけるようにしていく。

## 地域の概要



陽成は、薩摩川内市の中部、麦ノ浦川の流域に位置している。山に囲まれ、自然豊かな地域。人口504名、高齢化率54.9%。高齢化率が高く、コロナ禍で担い手不足が地域の課題として挙がっている。

## 取組のきっかけ

自治会で住民支え合いマップを実施した時に、コロナ禍で地域内で集まる機会が減ったと話題に挙がったことがきっかけ。

## 取組の目的

- 地域のシンボルであるイチョウを生かした、集いの場としての拠点づくり
- 地域内での集いの場の立ち上げ
- 住民支え合いマップの実施（見守りについての協議の場）

## これまでの経緯

年・月	出来事
令和4年12月7日	住民支え合いマップを実施
	・コロナ禍で地域で集まる機会が減った と意見あり
	生活支援コーディネーターが、他地区の集いの場について情報提供
	自分たちでも取り組んでみよう



## 活動の概要

- 集いの場1●  
移動販売で、人が集まることを利用し、移動販売車が来る前にラジオ体操を始める  
週に1回  
9人参加  
料金は無料
- 集いの場2●  
自治会で、毎年「イチョウの杜」でライトアップのイベントを開催。  
見学者がゆっくり過ごせるようにと、手作り、手塗りをしたテーブルと椅子の設置  
イチョウの横にコスモスを植えたり、草取りしたり手入れをしている



## 取組における生活支援コーディネーターとしての役割

### 〔SCとしての役割〕

- 住民支え合いマップで集いの場や地域活動の把握
- 他地域の取り組みの情報提供
- 活動開始後のフォロー
- 活動を他地区に広報、情報提供
- 他地区で同じ取り組みが始まったことを、上大迫自治会へ情報提供



## 現時点での到達点（効果・課題など）

### 〔効果〕

- 地域の新たな集いの場
- 介護予防（ラジオ体操）
- 高齢者同士の交流
- 参加者が増え、交流が増えた
- 隣の自治会が活動を知り、同じ活動に広がった
- 他地区でも活動が始まり、改めて自治会のやる気となった

### 〔課題〕

- 高齢化率が高く、今後の継続した活動

- 生活支援  見守り  協議体
- 買物支援  配達  その他
- 移動支援  居場所づくり

## 地域の概要



土橋地区は、日置市伊集院地域の東部に位置し、鹿児島市と隣接している自然豊かな地域。  
 少子高齢化が進み人口約750人、高齢化率は50%を超えている。  
 今後免許返納者の増加も見込まれ、移動支援が課題となっている。

## 取組のきっかけ

- コロナ禍で地域が閉鎖的になっていた
- 免許返納者の増加も見込まれ、買い物困難に対しても早めに対応ができたならと地区公民館側が、地域へ提案し実施することとなった
- 免許返納をした独居高齢者が増えてきた

## 取組の目的

- 買い物困難の方への支援
- 見守りを兼ねて、自治会を超えた交流（地域が離れていて、交流がない）



## これまでの経緯

年・月	出来事
令和3年	吹上町藤元地区の買い物ツアーを土橋地区公民館支援員が視察
令和3年8月	土橋地区公民館支援員が、タクシー会社へ買い物ツアーの企画書を提出し、合意を得る。
令和3年9月	土橋地区公民館職員が地域の民生委員に相談
令和3年11月	土橋地区の安心安全・見守り事業会議にて、買い物ツアー利用について相談。
	①利用者の調査（民生委員に依頼）②登録者リストの作成 ③タクシー乗り場調査とリスト化
令和3年12月	買い物ツアー実施
令和6年3月	土橋地区公民館の予算減少の為、継続に向けて再検討。 利用者負担と赤い羽根共同募金の助成を活用し、継続中
令和7年	利用者が増えたことを想定し、買い物サポートが可能な団体と話し合う予定

## 活動の概要

土橋地区公民館と自治会、地域のタクシー会社が協働し定期的に月1回、買い物に困難のある高齢者などを対象に、ジャンボタクシーを利用し、買い物支援を実施している。

- ◆ 対象者：独居高齢者、高齢者世帯で遠方までの運転が自信のない方、障がいがある方や、65歳以上の希望者
- ◆ 場 所：伊集院地域のスーパー
- ◆ 日 時：月1回（第3水曜日 13時半～15時）
- ◆ 利用人数： 7 名
- ◆ 利用料金：年間 500円
- ◆ 活動に関わっている人
  - ・土橋地区公民館職員、民生委員、福祉アドバイザー
  - ・買い物には、民生委員、福祉アドバイザーから2名付き添っている。



## 生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕 〔SCとしての役割〕

- SCと定期的な情報共有
- 広報誌での活動の周知
- SCが定期的に土橋地区公民館へ訪問、電話連絡し、情報共有
- 他の自治体等へ周知
- 他の地域への情報提供
- 赤い羽根共同募金助成金の相談・支援
- 土橋地区で支援継続ができていて、相談があれば買い物サポートが可能な団体とつなぐ
- 土橋地区の活動の把握、土橋地区公民館との繋がり
- 関係団体の連携・協同
- 担い手育成（シニア人材育成推進事業）

## 現時点での到達点（効果・課題など）

- |  |   |
|--|---|
| <p>〔効果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 買い物ツアーの道中で会話することを楽しみにしている利用者が多い。</li> <li>● 重たい物も購入できる。</li> <li>● 当日利用しなくても利用有無の確認を行っている。</li> <li>● 民生委員、在宅福祉アドバイザーが同乗している為、見守りや安否確認にもつながっている。</li> </ul> | <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 買い物ツアーがスタートしてから見直しが必要でない為、利用者の再調査が必要</li> <li>● 利用者が増えた時の対処法</li> <li>● 日置市の乗り合いタクシーなど、他の手段も利用できる支援</li> </ul> |
|--|---|

- 生活支援  見守り  協議体
- 買物支援  配達  その他
- 移動支援  居場所づくり



## 地域の概要



伊集院地域、妙円寺9区自治会は平成10年頃に開発された住宅街。坂道が多く、バス停からも遠い。高齢化率は6.9%だが、自治会内には高齢者住宅もあり、移動が生活課題となっている。

## 取組のきっかけ

住民主体の通いの場「筋ちゃん広場」に講座で出向いた際、地域の困り事として「車を運転できなくなると買い物に困る」との声が聞かれたため、買い物支援ができそうな団体とのマッチングができないか検討することになった。

## 取組の目的

- 買い物困難な方への支援
- 高齢者の外出支援と交流の場づくり
- 課題解決に必要な団体と連携する



## これまでの経緯

年・月	出来事
R5.12	住民主体の通いの場「筋ちゃん広場」の講座で妙円寺9区自治会の住民より買い物支援のマッチング希望あり。
R5.12～ R6.3	移動販売や配達を実施しているお店や福祉事業所に送迎車活用について相談。
R6.6	伊集院子どもふれ愛食堂が車両の寄贈を受けたと連絡があり、送迎支援を検討していると聞いていたため支援希望団体がいることを相談。支援可能な返答あり。
R6.7	自治会と伊集院子どもふれ愛食堂で話し合いの場を持ち、お試し買い物ツアーを計画。
R6.8	お試し買い物ツアーの実施。実施後に週1回の定期実施を決める。
R7.4～	自治会での活動として定着する。

## 活動の概要

妙円寺9区自治会が伊集院子どもふれ愛食堂の所有する車両で買い物ツアーを実施している。

### 【頻度・利用人数・利用者負担】

- 伊集院子どもふれ愛食堂：車両、運転手、乗降支援や店内同伴のボランティアを提供
- 妙円寺9区自治会：民生委員が利用希望者を確認し、支援者と連絡調整
- 利用料金は1回400円

### 【活動に関わった人・団体】

生活支援コーディネーター、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会、妙円寺9区自治会、民生委員、伊集院子どもふれ愛食堂、スーパー、福祉事業所



## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

### 【行政担当者としての役割】 【SCとしての役割】

- 第2層協議体で事業説明
- 広報誌での活動の周知
- SCと情報共有
- 地域住民の困り事抽出
- 支援団体の提案、連絡調整、マッチング
- 市内の買い物支援の活動について情報提供



## 現時点での到達点（効果・課題など）

### 【効果】

- 買い物支援だけでなく、住民同士の交流の機会につながっている。
- ツアー参加有無について民生委員が定期的に関わることで安否確認につながる。
- 伊集院子どもふれ愛食堂の送迎支援が他の場でも活用されている。

### 【課題】

利用者が少ない日は参加希望者も遠慮され、断られることがある。

- 生活支援  見守り  協議体
- 買物支援  配達  その他
- 移動支援  居場所づくり

## 地域の概要



曾於市は平成17年に3町（末吉町、大隅町、財部町）が合併し誕生。

人口：31,433人

世帯数：17,001世帯

高齢化率：44.2%（令和8年1月末現在）

少子高齢化、人口減少等は年々進行している。

買物などの移動支援をはじめ、自助や公助では対応が難しい生活課題に対する地域支援の必要性が高まっている。

## 取組のきっかけ

地域福祉の推進において、自身や制度では対応が難しい生活課題が増える中で、身近な地域での支え合いを醸成することを目的に、顔の見える地域住民の助け合いの関係づくりの促進と「自分たちの住むまちを、自分たちの手で住み続けられるようにしたい！」という住民の思いを形にしようと始まった。

## 取組の目的

- 自助や公助では対応が難しい生活課題に柔軟に対応することによる切れ目のない支援
- 身近な地域における住民同士のつながりづくりと日常的な助け合いの促進
- 住民の地域福祉活動への参加促進と支え合いの機運を再醸成
- サービスを通じて人と人とのつながりを生み、地域の支え合いを広げる

## これまでの経緯

年・月	出来事
平成23年2月	住民参加型の福祉サービスに関わるアンケート調査実施
平成23年7月	第1回住民参加型福祉サービス検討会
平成23年9月	先進地研修
平成23年10月	第2回住民参加型福祉サービス検討会
平成24年2月	ほっと♡サービスたからべ事業開始
平成25年	大隅地域住民参加型福祉サービス検討会 末吉地域住民参加型福祉サービス検討会
平成25年6月	ほっと♡サービス大隅、ほっと♡サービス末吉事業開始 市内全域に事業を展開
毎年	協力会員連絡会を開催

## 活動の概要

### ●取り組みの概要

お手伝いをお願いしたい人を依頼会員、お手伝いをする人を協力会員として登録する会員登録制の有償サービス。市社協が依頼会員と協力会員をコーディネートし、日常生活上の困りごとに対し、生活支援をはじめ、庭の整備、簡易な修繕など幅広く支援を行う。（相談・会員登録は無料）

### 【頻度】

依頼会員の依頼に対し、その都度対応

受付日時：月曜日から金曜日まで（祝祭日は除く）9時から17時

サービス実施日時：日曜日から土曜日まで8時から17時

### 【利用料】

30分まで300円。以降10分を超えるごとに100円を加算

協力会員自家用車使用料20円/km ※協力会員の車に同乗はできない

### 【活動に関わる人・団体等】

地域住民、市社会福祉協議会、市、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所 など

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

### 〔行政担当者としての役割〕

- サービス周知の協力
- 情報共有

### 〔SCとしての役割〕

- アンケート調査
- 住民参加による検討会の開催
- 困りごとへの相談支援
- 会員登録と支援調整
- 協力会員人材の発掘と養成
- サービスの周知と協力会員の募集

## 現時点での到達点（効果・課題など）

### 〔効果〕

- 制度の狭間にある困りごとに対応することで、地域生活の安心を支援できている。
- サービスを入口に同じ地域に住む住民同士としてのつながりを生み出し、日常的な関わりを生み出している。
- 活動者として参加する機会を作ることによって地域福祉への理解促進となっている。

### 〔課題〕

- 生活支援の必要性が高まっている中で、サービスがなかなか浸透しないことに対する周知の強化
- 協力会員の増強による網の目の細かいサービスの展開

- 生活支援  見守り  協議体
- 買物支援  配達  その他
- 移動支援  居場所づくり

## 地域の概要



国分北圏域で郡田川を挟んだ国分北小学校区域内。  
国分市街地から車で15分。  
公共交通機関はバスのみ。主な移動手段は車。

人口 926人（住民基本台帳人口）  
高齢化率 24.7%  
自治会加入率 54.2%（R7.4.1現在）

## 取組のきっかけ

自治会内のサロン活動で、ゴミ出しや買い物など身近な困りごとを抱えている人がいるという声を耳にし、実態を調べ、地域内で支援できるような“今”仕組みを整え、継続的な運用を図れるようにしたいと考えたこと。

## 取組の目的

ちょっとした家事や移動に困っている高齢者、障がい者、介護等で同様の困りごとを抱えている方を対象に、地域内で支援（互助）活動の仕組みを整え、継続的な運用を図る。

## これまでの経緯

年・月	出来事
	サロンの茶話会時、ゴミ出しや買い物等に困っているという声上がる。
令和5年	地域内で助けあい・支え合いの仕組みづくりができないか構想をはじめ。
令和5年4月	助けあい・支え合い活動について県社協より住民参加型福祉サービス事業の説明をしていただく。
令和5年6月	地域内で仕組みづくりを検討していることを、サロン活動内で共有する。
令和5年7月	地域の活性化や自治会活動への協力を目的に活動している「三郷ドリーム同友会」を中心に生活支援の団体「三郷ドリーム♪ほっとサービス」を結成する。
令和5年8月	ボランティア活動保険に加入し、生活支援サービスを開始する。
令和5年12月	チラシを作成し、自治会内へ配布し周知する。生活支援にプラスして、買い物支援・通院支援等、移動を含む支援も開始する。
令和6年3月	鹿屋市川東町・泉ヶ丘町へ先進地視察。
令和8年1月 現在	ゴミ出し支援・庭仕事支援・外出支援等活動中！！

## 活動の概要

- ◆活動内容： 家事支援（ゴミ出し、電球交換、片付け…）  
庭仕事支援（庭の草刈り、掃除、片付け…）  
外出支援（買い物、病院…）
- ◆活動範囲： 三郷自治会内
- ◆利用料： 300円/30分、ゴミ出し100円/1回
- ◆対象者： 地域内の高齢・障がい等で日常生活で困りごとを抱え、手助けを要する方等
- ◆構成員： 13名
- ◆利用状況： 19件/月  
(R7.4～12月)



## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 〔行政担当者としての役割〕 | 〔SCとしての役割〕    |
| ● SCと定期的な情報共有 | ● 活動に関する相談    |
|               | ● 活動状況の把握     |
|               | ● 保険、助成金手続き   |
|               | ● 事例発表にて活動の周知 |



## 現時点での到達点（効果・課題など）

### 〔効果〕

週1回のゴミ出し支援での声掛けが、新たなつながりや見守りにもなっていること。また、R7より女性の支援員もゴミ出し支援の月当番に入ったことから、ごみ回収訪問時の女性目線での会話などを含め“日常でのちょっと助けてほしいこと”も上がってくるようになることを期待している。

### 〔課題〕

活動の定着広がりにつなげる新たな支援（グループ）メンバー加入への継続的対応。



- 生活支援  見守り  協議体
- 買物支援  配達  その他
- 移動支援  居場所づくり

## 36 移動販売車「ぐりんぐりん号」による買い物支援

いちき串木野市社会福祉協議会

### 地域の概要



いちき串木野市は鹿児島県薩摩半島の北西部に位置し、平成17年10月に市来町、串木野市が合併し誕生。

人口25,879人、高齢化率39.29%。（令和6年4月末現在）

16の地区(コミュニティ組織)、143の公民館が地域福祉を推進する基礎単位。

### 取組のきっかけ

かねてより地域ケア会議などで地域内での買い物支援に関する困りごとが指摘されていた。また、既存の移動販売車はあったが市内全域のニーズを充足するには不十分であったため、もう一台移動販売車が必要だという思いから事業開始に至った。

### 取組の目的

- 高齢者への買い物支援
- 近所の方を支援しながら買い物をする中で生まれる生活支援の仕組みづくり
- 自ら買い物をする、集合場所まで歩いたり、地域の人と関わったりしながら買い物することを通じた介護予防

### これまでの経緯

年・月	出来事
令和2年6月	政策課(役所)を通じ、日本風力エネルギー株式会社(以下、日エネ)よりマスク寄付の相談を受ける。(事業助成へのつながるきっかけ)
令和2年7月 ～令和3年4月	豪雨災害がきっかけで、継続的な意見交換の場を設けていた。日エネより社会貢献について、継続的に話し合いたいとの相談があり、月1回の情報共有会議を開催。(計9回)
令和3年5月	日エネ「一般社団法人カザミドリ」設立を知る。(地域の課題解決を目指す社会貢献の一環)
令和3年6月	日エネの社会貢献活動と体制整備事業としての活動の情報共有、協議。 (一社)カザミドリより移動販売車購入に対し助成が確定。 16地区へアプローチ。(事業趣旨の説明と地域の状況把握)
令和3年7月～10月	具体的な取組開始。関係者と協議。助成金の申請、交付決定。
令和3年11月～12月	実施事業者決定。
令和4年1月	商品等検討。ころばん体操代表、まちづくり競技愛会長等へ事業開始の案内。 出発式・運行開始。

### 活動の概要

いちき串木野市では、143公民館のうち、109公民館でころばん体操が行われている。この取組は元気な人も虚弱な人も集まって行うことを理想としているため、良好な住民間の関係と支援体制が必要であり、定期的に顔を合わせていることから、互いを気にかけて関係性が築かれている。

買い物に課題を抱える高齢者が集まるころばん体操などの拠点を活用し、移動販売車を巡回させることで、住民間の支え合いを通じた買い物支援の体制を作っている。

商品を手に入れるだけでなく、自ら歩いて店に行き、商品を選んで支払うという過程が介護予防になるという点も重視している。

- 巡回：現在10地区22ヶ所を対象
- 停車時間：20分
- 参加対象者：誰でも可能 ※ころばん体操を行わない人も利用可能。
- 利用料：無料

### 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

#### 〔行政担当者としての役割〕

- SCと定期的な情報共有を行う

#### 〔SCとしての役割〕

- 社協が従来から持ち合わせている地域との関係を活かして事業主旨を伝える(地域、関係各所への啓発)
- 関係各所との協議の際には進行やまとめ役を行う
- 関係機関や住民との関係構築

### 現時点での到達点(効果・課題など)

#### 〔効果〕

地域の集合場所で移動販売を行うことで、地域の方々が隣近所の方を支援しながら買い物しつつ、生活支援を行う仕組みづくりができる。

集合場所まで少しでも歩き、地域の人と関わりながら買い物ができるため介護予防につながる。

#### 〔課題〕

運転から商品の補充、販売等全ての業務を一人の担当者が行っており、代わりがないことから、負担が大きくなっている。

- 生活支援  見守り  協議体
- 買物支援  配達  その他
- 移動支援  居場所づくり

## 37 「困りごと支え隊」(※1) 「かせとも」(※2) による生活支援

いちき串木野市社会福祉協議会

### 地域の概要



いちき串木野市は鹿児島県薩摩半島の北西部に位置し、平成17年10月に市来町、串木野市が合併し誕生。

人口25,879人、高齢化率39.29%。(令和6年4月末現在)

16の地区(コミュニティ組織)、143の公民館が地域福祉を推進する基礎単位。

### 取組のきっかけ

平成30年に市と社協の話し合いの中で、公民館等の福祉部等を基盤として地域住民が被支援者を支援する体制づくりを進めていく方針で一致。

### 取組の目的

- 生活支援が必要な方(被支援者)への支援。
- 生活支援を行う方(支援者)にとっての介護予防。

### これまでの経緯

年・月	出来事
平成30年6月	高齢者地域支え合いポイント事業を活用した「困りごと支え隊」の活動方法について市、社協間で協議を開始。
平成30年12月	羽島地区、野平地区を「困りごと支え隊」のモデル地区とすることを市、社協間で決定。
令和元年11月	羽島地区で困りごと支え隊「コスモス」「めだかの学校」が結成。
令和2年1月	羽島地区で困りごと支え隊「たんばぼ」が結成。
令和2年2月	野平地区で困りごと支え隊「野平困りごと支え隊」が結成。
令和3年5月	介護人材確保ポイント事業による「かせとも」を令和4年度から実施することを市が決定。
令和3年6月	介護人材確保ポイント事業を活用した「かせとも」の活動方法について市、社協間で協議を開始。
令和4年4月	羽島地区、野平地区で「かせとも」の活動を開始。
令和4年6月	地区社協活動の取組に生活支援を位置づけ、地区の会長等へ説明を実施。
令和5年3月	地区社協活動として16地区内全てで「困っている人」を把握する体制となった。

### 活動の概要

- 活動の柱
  1. 生活支援CD、市担当者による地区等やこぼん体操への事業説明を行うことで普及啓発を実施。
  2. 地区社協活動(※3)に生活支援を位置づけ、地域福祉の基盤整備を推進。
  3. 高齢者地域支え合いグループポイント事業、介護人材確保ポイント事業を活用。
- 生活支援の項目
  - ①屋内の掃除 ②屋外の掃除 ③ゴミ出し ④洗濯 ⑤布団干し・取り込み ⑥衣服の整理・補修
  - ⑦調理 ⑧買い物 ⑨戸締り ⑩環境整備 ⑪外出 ⑫話し相手

#### 「困りごと支え隊」(※1)

- 「高齢者地域支え合いグループポイント事業」を活用し以下にポイント付与。
- グループで同一日に3人以上(半数以上が65歳)で1時間以上の支援。  
1ポイント=1,000円、年間最大60,000円。
- 定期的に困っている方について福祉部等で情報共有や支援内容の会議。

#### 「かせとも」(※2)

- 介護人材確保ポイント事業。
- 個人で1回30分以上の支援。  
30分=1ポイント=100円(1日上限2ポイント)、年間最大5,000円の本市で使える商品券。

#### 「地区社協活動」(※3)

- 16地区を地区社会福祉協議会として設置し、地区を窓口としながら生活支援の体制づくりを推進するため、以下の取組を行う。
- ①生活支援の必要性があると思われる方(高齢者等)の実態把握(名簿作成)。
  - ②生活支援の内容や方法、頻度等について話し合う(会議録・年4回以上)。
  - ③必要性があり、かつ可能であれば地域で生活支援を実施。
- ※①②③は主に公民館ごとに実施。  
※赤い羽根共同募金で助成(地区と公民館へ助成)。

### 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

#### 〔行政担当者としての役割〕

- 事業主旨方針を明確にする。
- SCと定期的な情報共有を行う。

#### 〔SCとしての役割〕

- 社協が従来から持ち合わせている地域との関係を活かして事業主旨を伝える(地域、関係各所への啓発)。
- 関係各所との協議の際には進行やまとめ役を行う。

### 現時点での到達点(効果・課題など)

〔実績・令和6年12月末〕

- 「困りごと支え隊」(羽島地区3団体、野平地区1団体、上名地区1団体、本浦地区1団体)  
⇒6団体、支援人数:212人、支援日数:120日。
- 「かせとも」  
⇒52人、支援人数:253人、支援日数:1389日。
- 市内全ての地区(16地区)で「困りごと支え隊」が結成される。

- 生活支援  見守り  協議体
- 買物支援  配達  その他
- 移動支援  居場所づくり



## 地域の概要



南九州市は、鹿児島県薩摩半島の南に位置し、旧川辺町、旧知覧町、旧額娃町が合併し誕生した。農業が主要産業であり、中でも「茶」は栽培面積・生産量とも日本1位の産地である。額娃町御領地区にある馬渡自治会は、世帯数163世帯。人口320人、高齢化率48.1%（R5.4月時点）と高齢化が進んでいるが、貯筋運動を取り入れたサロン活動「馬渡女子会」や男性の居場所づくりを目的として発足した刃物とき支援等で活動する「だんだん馬渡」などの活動を通して、高齢者だけでなく、地域のみんが支えあい、活躍できる地域づくりに取り組んでいる自治会。

## 取組のきっかけ

男性の居場所づくりを目的として発足した刃物とき支援等で活動する「だんだん馬渡」の参加者に、有償ボランティア活動の概要や立ち上げについて説明。有償ボランティアの取組を長く継続していくためには、自治会全体で取り組んでいった方がいいとの意見があり、自治会での総会で説明を行い、実施に至った。

## 取組の目的

- 気軽に助けてと言える、助ける側も助けられる側も気を使わないですむ仕組みづくり（子ども達の時代になっても）
- 自分ができると、役割を持つことで「やりがい」や「生きがい」づくりにつなげる

## これまでの経緯

年・月	出来事
令和4年5月	だんだん馬渡の活動参加者（15名）に有償ボランティア活動の概要や立ち上げについて説明（活動内容や料金等）
令和5年2月	有償ボランティア立ち上げと今後の方向性について、検討協議し、自治会全体で取り組んでいくことを決定。 参加者 東馬渡・西馬渡自治会長・だんだん馬渡代表者 2名
令和5年3月	自治会総会にて、住民に有償ボランティアの立ち上げと活動について説明
令和5年3月	お助け隊の募集開始
令和5年4月	だんだん馬渡お助け隊発足・活動開始

## 活動の概要

額娃町御領地区馬渡自治会（東馬渡自治会、西馬渡自治会）での有償ボランティア活動を実施している。  
**【活動の流れ】**  
 仕事を依頼する人が事務局に電話等で作業内容を伝え、事務局から作業を受けるお助け隊に連絡をして作業をしてもらう。

- 【支援できること】**
- ・ 燃やせるゴミの運搬（分別は本人）
  - ・ 電球・電池の交換
  - ・ 庭の草取り・草刈り・庭の掃除・庭木の剪定（高所作業除く）
  - ・ 布団干し
  - ・ 家周りの片付け
  - ・ 田んぼ・畑の草刈り（土手は禁止）
  - ・ その他軽微な作業（要相談）
- ・ 台風接近時または通過後の雨戸の開閉
  - ・ 鉢花のみずやり
  - ・ 近隣の買い物代行
  - ・ 簡単な裁縫（ボタン付け・ゴム入れ）
  - ・ 郵便投函
  - ・ イヌマキの木薬剤散布

**【料金】**（原則1時間以内）  
 ・ 30分未満 400円                      ・ 30分～60分未満 800円  
 ※ゴミ出しに関しては、1回100円など、活動の内容によっては、金額を料金範囲内でその都度勘案する。運搬料、材料費等も別途料金を徴収する。

**【活動に関わった人・団体】**  
 事務局には、自治会内の方で、以前自治会長経験のある方が担っている。  
 生活支援コーディネーター、市町村

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

- 【行政担当者】**
- 広報誌等での活動の周知
  - 活動の立ち上げ支援（取組の概要や立ち上げ方法の情報提供、活動規約、広報チラシ等の媒体提供）
- 【SCとしての役割】**
- 活動の立ち上げ支援（取組の概要や立ち上げ方法の情報提供、活動規約、広報チラシ等の媒体提供）
  - 活動の継続支援（活動しての課題や困りごとの聞き取り、情報共有）

## 現時点での到達点（効果・課題など）

**【効果】**  
 自治会内の身近な場が事務局となり、活動していることで、相談しやすくなっており、依頼数も増え、ちょっとした困りごとを支えあえる活動に繋がっている。

**【課題】**  
 担い手の高齢化・固定化があり、お助け隊が継続できるように適宜課題の聞き取りや支援を行っていく予定。

## 地域の概要



西町はさつま町では市街地ではあるが、地域住民の高齢化率は35.5%となり、日常生活上の支援に、課題を有する高齢者世帯も増えている状況である。



## 取組のきっかけ

民生委員の研修で三重県四日市市の社会福祉法人青山里会へ行き、地域の高齢者等とボランティアを繋ぐ活動「ちょっと手を貸して運動」を視察し、地域支え合い推進員の活動ヒントを得て、とりあえず公民会で話し合ってみることになった。

## 取組の目的

- 買い物困難な方への支援
- 地域での支え合い活動の推進

## これまでの経緯

年・月	出来事
平成28年10月	民生委員の研修で三重県四日市市の社会福祉法人青山里会で実施されていた地域の高齢者等とボランティアを繋ぐ活動「ちょっと手を貸して運動」を視察した。
平成28年11月	第1回 役員会を公民会長宅で開催した。 第2回 メンバーに班長を加えて話し合った。
平成29年3月	第3回 ふれあいサロンで役場の生活支援コーディネーターを招いて説明を受けた。 第4回 公民会の総会で住民80名ほどに説明をし、承認を得た。
平成29年4月	地域支え合い推進員の年4回の会議で総合事業や支え合い推進員について研修を受けた。
平成30年4月	さつま町の在宅福祉アドバイザーが地域支え合い推進員として役職一元化が決定した。生活支援型の訪問型サービスはまだ行わないことになった。
平成30年6月	西町福祉会議で町内の住民主体の生活支援活動を行っている事例や西町の要援護者、活動に係る保険の資料等をもとに話し合いを行い、団体名、料金体制、活動時間・内容を決定した。
平成30年8月	「西町ささえあい隊」が設立し、総合事業は行わないことにした。

## 活動の概要

### 〔支援内容〕

買い物、病院付き添い、公共機関付き添い、住居の修理等

### 〔頻度・利用人数・利用者負担〕

- 月に3件程度
- 利用料金は会員登録制で協力会員・利用会員とも年間1,000円

### 〔活動に関わった人・団体〕

元民生員の発起人、自治会、役場、社会福祉協議会

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

### 〔行政担当者としての役割〕

- 生活支援団体活動事業補助金の創設・既存団体への説明・交付申請受付・補助金交付 等

### 〔SCとしての役割〕

- 規約の例示
- ボランティア活動保険の手続支援
- 活動上の相談・支援
- 活動の普及・啓発

## 現時点での到達点（効果・課題など）

### 〔効果〕

- 買い物に支援が必要な方の支援につながっている。
- 通院の付き添いにも対応できている。

### 〔課題〕

- 今から来てほしいというニーズへの対応が難しい。
- 一度に何ヶ所も立ち寄られる方の対応に時間がかかる。
- 公民会での活動なので、公民会未加入者への対応ができない。

- 生活支援
- 見守り
- 協議体
- 買物支援
- 配達
- その他
- 移動支援
- 居場所づくり

## 地域の概要



さつま町は鹿児島県の北西部に位置しており、平成17年3月に旧宮之城町、旧鶴田町、旧薩摩町が合併しました。

よりあい処「幸」がある紫尾下公民会は、町の北部（旧鶴田町）の紫尾区にあります。

【紫尾下公民会】  
全体人口/176人（高齢化率：50%）



## 取組のきっかけ

平成28年3月、北さつま農協紫尾出張所が閉鎖し、皆が気軽に立ち寄り、立ち話のできる拠り所が減った。その農協跡地のすぐ隣に空き店舗（元商店）があった。持ち主の方が居場所づくりの趣旨を理解してくださり、使用許可をくださった。そのため、H30年度に支え合いマップづくりを開催し、民生委員さんから居場所づくりの提案を行い、公民会でやってみようということになった。

## 取組の目的

- 見守りかねてのコミュニティづくり
- 閉じこもりがちな高齢者の外出のきっかけ（交流の場）
- ころばん体操の実施
- オレンジカフェ実施・チームオレンジ活動。



## これまでの経緯

年・月	出来事
平成30年度	支え合いマップづくりの開催。
令和元年7月～11月	住民にて、空き店舗の片づけ。
令和2年3月	居場所づくりの開所に向けての話し合い。よりあい処「幸」と名前も決定。
令和2年11月1日	よりあい処「幸」の開所。

## 活動の概要

空き店舗を活用した場所に地域住民の方々が集まり、ころばん体操やレクリエーション、オレンジカフェ（お茶飲み）などを実施している。地域の在宅介護支援センターにも運営協力をいただき、介護相談などにも対応してもらっている。

〔頻度・利用人数・利用者負担〕

- ・毎週月曜日、第1・第3水曜日に開催。
- ・平均20人程度が参加している。
- ・利用料金は1回200円。

〔活動に関わった人・団体〕

生活支援コーディネーター（社会福祉協議会）、市町村、在宅介護支援センター、公民会長、民生委員、地域住民

## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 活動における補助金交付
- SCとの情報共有

〔SCとしての役割〕

- 活動における相談受付
- 社協広報誌での活動紹介
- 活動の内容についての紹介DVDの作成
- 運営協力員との情報交換



## 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

参加されている方々から「楽しみが増えた。」「生きがいだ。」という声を聞く。参加者が、自分のためによりあい処「幸」に行くんだと目的意識を持つことできている。

〔課題〕

男性の方も参加しやすい居場所づくり

- 生活支援  見守り  協議体
- 買物支援  配達  その他
- 移動支援  居場所づくり

## 41 高齢者お出かけサポート事業『でかけ隊』による買い物支援

大崎町 保健福祉課  
大崎町社会福祉協議会

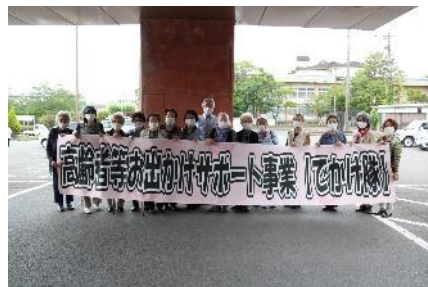


### 地域の概要



大隅半島に位置する大崎町は、北は山間部、南は志布志湾に面しており、自然豊かな町である。スーパー等の商業施設が少ないため、車がないと不便な地域もある。

人口：11,848人 高齢化率：41.4%  
(令和7年3月末現在)



### 取組のきっかけ

買い物困難者や免許返納された高齢者が増え、外出する機会が減ることから、町の所有する福祉バスの空いた時間を利用し、買い物や施設見学など高齢者等の外出する機会を増やすことで介護予防、健康増進につながると考え地域の高齢者等に声掛けし実施に至った。

### 取組の目的

- 買物困難者への支援
- 交通弱者への支援
- 交流のない方へ地域の集いの場（サロン等）への参加呼びかけ

### これまでの経緯

年・月	出来事
令和2年2月	福祉バスの空いた時間を利用し、買物支援等の支援ができないか検討 行政と打合せ（福祉バスの運行状況など）・活動保険加入・町内外の施設見学相談
令和2年3月	集いの場へ訪問しアンケート調査、周知（申し込み開始）
4月	実施予定だったがコロナウイルス感染症拡大防止のため見合わせ
6月	6/9より「でかけ隊」活動開始。当日は出発式を行い、報道機関5社が同行
7月	広報誌掲載し周知
令和4年4月	新型コロナ感染症拡大により休止
令和4年6月	感染症予防対策しながら再開
令和4年7月	広報誌掲載し周知（コロナ感染予防として活動時間短縮の案内）
令和7年	活動継続中

### 活動の概要

町の福祉バスを利用し外出する機会を提供し、買い物や施設見学などで介護予防や健康増進を図ることを目的とした事業。

- 対象者は、町内に居住する65歳以上の地域住民グループやその支援者等
- 活動時間は2～3時間（行き帰り含む）
- 運転手は、町の職員。社協職員1名が同乗する。
- 利用回数は、年間2回まで。利用人数は、1グループあたり5名～20名まで
- 利用料は無料で、運行日は福祉バスの空いている日となる。
- 活動に関わった団体等  
生活支援コーディネーター（SC）  
保健福祉課、町内外の事業所

### でかけ隊 行程表の例

【出発日】令和7年5月14日（水）【人数】12名

自治公民館 発	9:30	
	↓	移動30分
久保醸造 視察	10:00	視察60分
	↓	移動5分
神徳稲荷 参拝	11:05	参拝20分
	↓	移動15分
どっ菜市场 買物	11:35	買物30分
	↓	移動20分
自治公民館 着	12:30	

### 取組における行政担当者●生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕 〔SCとしての役割〕

- 福祉バスの手配・運転手確保
- SCとの連携
- サロン等未加入者への声掛け
- 広報誌による周知または集いの場へ訪問、聞き取り
- でかけ隊の見学場所の提案



### 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 90代男性が、でかけ隊参加をきっかけにサロンにも加入された。
- 茶話会だけのサロンが、でかけ隊で自分たちで好きなお弁当を購入し、みんなで公民館で食事会をした。

〔課題〕

- 利用される集落の偏り（毎年同じ集落からの依頼）
- バスの乗降問題
- 集落外の買い物困難者とのマッチング

- 生活支援  見守り  協議体
- 買物支援  配達  その他
- 移動支援  居場所づくり

## 42 南大隅町あったか・すみっこサービス



南大隅町 介護福祉課

### 地域の概要



南大隅町は平成18年3月に旧根占町と旧佐多町が合併し、本土最南端に位置している。合併当初は1万2,000人ほどいた人口も現在は5,600人あまりで高齢化率は52.3%と県下1位（令和7年12月現在）。佐多地区の一部においては本町市街地まで車で約1時間。主な移動手段は自家用車であるが、町が運営するコミュニティバス、乗合タクシーの運行、民間業者による福祉タクシーが運行されている。

### 取組のきっかけ

当時、町の高齢化率が42.9%とすでに県下1位であり全世帯の4世帯に1世帯が独居高齢者というなかで、生活でできていたことが年々、負担や不安になってきたと困りごとを抱える高齢者の声があり、公的サービスだけでない“住民のちからでも支える”仕組みを構築し、持続的な運用を図る。

### 取組の目的

- 住民主体による生活支援・福祉サービス
- 75歳以上の高齢者世帯・障がい者世帯への生活支援
- 生活支援員（有償ボランティア）の生きがい・介護予防・つながりづくり
- 課題解決に必要な団体と連携する

### これまでの経緯

年・月	出来事
平成24年2月	根占地区のモデル地区を対象に高齢者・障がい者世帯で生活ニーズ調査を実施
平成24年7月	生活支援員（有償ボランティア）の養成
平成24年9月	「暮らし安心・地域支え合い活動」の名称でサービス開始
平成25年3月	チラシの作成・町内全戸へ配布
平成25年7月	鹿児島県始良市、熊本県合志市・菊陽町へ先進地視察
平成29年4月	「あったか・すみっこサービス」へ名称変更
令和8年1月現在	ゴミ出し支援、屋内外の清掃活動中

### 活動の概要

- 対象者 : 75歳以上の高齢者世帯や障がい等で日常生活に困っている世帯
- 活動内容 : 家事支援（ゴミ出し、屋内清掃、衣類の整理）  
屋外支援（庭の草払い、掃除、片付け）  
買い物代行、食事支援、障子張り等
- 活動範囲 : 町内全域
- 利用料 : 500円/1時間 ゴミ出し200円/1回
- 構成員 : 生活支援員登録者33名（令和7年4月現在）
- 利用状況 : 46件（令和6年度実績件数）



### 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕〔SCとしての役割〕

- SCとの定期的な情報共有
- 活動に関する相談
- 生活支援員の新規養成
- フォローアップ研修会の開催（3回/年）



### 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

介護認定や障がい認定にかかわらず、支援を必要とする方へ柔軟に活動の対応ができる。活動後には自然とお互いに会話が始まり、利用者の安心感や協力者の生きがいや介護予防にもなっている。

〔課題〕

継続したサービスの広報周知や新たな生活支援員の確保と支援員不在の地域の担い手の掘り起こし。

- 生活支援  見守り  協議体
- 買物支援  配達  その他
- 移動支援  居場所づくり

## 43 「中種子町社会福祉協議会」による買い物支援

中種子町 地域福祉課

### 地域の概要



以前は各地区集落に商店があり、日常の買い物に支障がなかったが、人口減少、高齢化により各地区集落の商店が閉店し、公共交通機関を利用したの買い物移動を余儀なくされた。

また、公共交通機関はバスのみ。高齢化率は40%を超え、免許返納者も多く、移動が生活課題となっている。



### 取組のきっかけ

重層的支援体制整備事業への移行準備事業において65歳以上の困りごとアンケート調査を実施。また、行政による買い物状況等に関するアンケート調査の結果を踏まえ、買い物に困っている高齢者が多いことが判明し、実施することとなった。

### 取組の目的

- 買い物困難な方への支援
- 高齢者の外出のきっかけ（ひきこもり予防）
- 見守り安否確認
- 課題解決に必要な団体へのつなぎ

### これまでの経緯

年・月	出来事
令和2年2月～令和2年3月	行政の買い物状況等に関するアンケート調査を実施
令和2年9月～令和3年1月	いきいき交流事業、独居高齢者への困りごとアンケート調査を実施 上記2つのアンケート調査の結果、買い物に困っている方が多いことが判明
令和3年2月	町内の社会福祉法人へ買い物支援を打診するが実現せず
令和3年2月	→行政・地域包括支援センター・社協にて買い物支援の協議を実施
令和3年4月	コミュニティバスを運用している行政課へ説明。 →アンケート調査で困っていると回答した方への案内、申請受付。 →買い物支援事業施行運転開始。 →地元スーパーへの説明、ポスター掲示依頼
令和3年4月	民生委員定例会にて説明。また、買い物移動に困っている方への案内依頼を実施

### 活動の概要

社会福祉協議会が買い物支援を実施

〔頻度・利用者数〕

- 町内7校区を4つに分け、それぞれ月2回実施
- 平均6名程度が利用している

〔買い物支援の流れ〕

- 品揃えの良い午前中に買い物を実施
- 事前申請（自宅を訪問し申請の手続き）
- 実施日の前日に利用内容を確認
- 実施日の当日は自宅まで迎えに行き、本人が希望する町内の商業施設まで送迎を行い買い物の支援をする。本人から希望があれば袋詰め等も対応する。

### 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- SCと定期的な情報共有
- SCが発行しているSC新聞で社会福祉協議会が行っている買い物支援事業を周知
- 買い物支援が必要な高齢者の把握
- 買い物支援が必要な高齢者へのつなぎ（利用促進）

〔SCとしての役割〕

- 集いの場での買い物支援の案内
- 買い物が困難な人の拾い上げ
- 支援中の困り事聞き取りも兼ねて、買い物支援対応者（パート職員）不在時には支援対応する
- 校区内で、様々な支援が必要な方を把握するための体制づくりの整備

### 現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

普段交流の少ない住民同士が買い物をきっかけに定期的に顔を合わせ、コミュニケーションがとれる関係が生まれている。買い物支援だけでなく、コミュニティの構築、ゆるやかな見守りの一翼を担っている。また、近年の生活背景に合わせ、令和6年度より申請条件を一部変更したことにより、申請者も増加、申請者より買い物困難者の情報提供を受ける件数も増え買い物困難者の拾い上げが以前よりできるようになった。生活課題等の相談があった場合は関係機関へのつなぎを行っている。

〔課題〕

買い物支援事業の周知はまだまだ課題であり、引き続き、民生委員による個別訪問を通じた働きかけや生活支援コーディネーターを通して、集落内集いの場での案内や買い物困難者の拾い上げをお願いしている。

**無料** 申種子町のくらしの安心をサポート

### お買い物支援

こんなことでお困りではありませんか？

- 荷物が重くて大変
- 買い物に行く移動手段がない
- ご自分の目で見て選びたい

ご質問・ご相談などお気軽にお電話ください

中種子町社会福祉協議会  
☎27-1845

ご利用までの流れ

ご相談・受付

ご依頼申込

お買い物

①自宅へお迎えに行き近所の方々と乗り合い商店街駐車場へお送りします

②商店でお買い物

③お買い物後、各ご自宅へお送りします

- 生活支援  見守り  協議体
- 買物支援  配達  その他
- 移動支援  居場所づくり

## 44 星原校区協議体「たすけ愛体」の活動について

中種子町 地域福祉課

### 地域の概要



限界集落を含む8つの集落からなる星原校区は、種子島の中央にある中種子町内の北部に位置する。海岸沿いの町で主な産業は農業。10年程前までは漁業も盛んだったが、後継者問題等で衰退。人口398人、高齢化率56.5%の超少子高齢化が顕著な地域。



### 取組のきっかけ

生活支援体制整備事業を推進するにあたり、各校区に協議体「たすけ愛体」を立ち上げた。校区で結成されたメンバーで集まり、住み慣れた地域でいつまでも暮らしていけるような助け合いの地域づくりを目指して活動している。定期的開催し、校区内の個人ニーズや地域課題を情報共有する際に、集落担当者より浜津脇集落のゴミ屋敷問題と竹之川集落の集いの場消滅という課題が上がってきた。

### 取組の目的

- 助け合いの地域づくり
- 日常生活での困りごとの支援
- SOSを出せない人の実態把握と支援の検討

### これまでの経緯

年・月	出来事
令和元年11月	星原校区協議体「たすけ愛体」結成
令和2年～4年	コロナ禍にて活動休止
令和5年1月	「たすけ愛体」再始動。おたすけ一覧表（*）を75歳以上の全世帯へ配付（*緊急時の連絡先や民生委員、困ったときのサービス事業所の連絡先が記載された一覧表）
令和6年3月 5月	● たすけ愛体開催時に浜津脇集落のゴミ屋敷問題の個人ニーズが上がる ◆ たすけ愛体新メンバー（校区長）へ挨拶に伺った際に竹之川集落の集いの場消滅の情報提供あり
令和6年7月	竹之川集落の集いの場の必要性を訴える声や、ゴミ屋敷周辺住民からのクレームもあり、たすけ愛体にて対応を協議 ● 民生委員でもあるたすけ愛体メンバーを中心にゴミ屋敷住民と話し合い、清掃の承諾を得て、日程調整を行う ◆ 竹之川集落住民に集いの場復活に向けての協力依頼するも協力得られず
令和6年8月	● たすけ愛体メンバー3名、近隣住民4名の協力をもらい、清掃実施
令和6年9月	◆ 隣集落の集いの場参加者の協力を得て、竹之川集落の参加者も一緒に活動することとなる
令和6年10月	◆ 隣集落への移動のニーズにサービスのマッチング

### 活動の概要



- 星原校区2層協議体「たすけ愛体」年に3～4回開催。主要メンバーで校区内の地域課題を抽出し、解決に向けて話し合う。〈協議体メンバー〉校区長・郵便局長・民生委員・住民女性消防隊（独居高齢者訪問）・行政担当者・SCで構成。
- 今回の地域課題は浜津脇集落のゴミ屋敷と竹之川集落の居場所づくり。
- ゴミ屋敷清掃は協議体メンバーの近隣住民との良い関係性や働きかけにより実施できた。
- ◆ 竹之川集落の居場所づくりにおいては、集落での協力は得られなかったが、他集落への働きかけで隣集落の活動に週1回参加させてもらうこととなり、移動支援にも結び付いた。



### 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

#### 〔行政担当者としての役割〕

- SCとの定期的な情報共有
- 協議体の活動把握と協力体制

#### 〔SCとしての役割〕

- 活動に関する連絡役
- 地域課題・個人ニーズの把握
- 関係各所との連携と協力体制づくり
- 地域住民、協議体メンバーとの良い関係性づくり
- ニーズとサービスのマッチング

### 現時点での到達点（効果・課題など）

#### 〔効果〕

- 「たすけ愛体」が再始動し、2年が経過し、メンバーも協議体の役割を理解出来てきている。
- 校区内の課題をメンバーで把握し、我が事ととらえ、解決の糸口を見つけようと積極的に動くことが出来ている。

#### 〔課題〕

- 毎年、協議体メンバーの入れ替わりがあるため、引継ぎが上手くいっていない。
- 住民への協議体の周知、事業への理解。

- 生活支援  見守り  協議体
- 買物支援  配達  その他
- 移動支援  居場所づくり

## 45 「ほほえみクラブ」のお買い物ツアー（屋久島町松峯区）



### 地域の概要



屋久島町全体の人口は11,151人、高齢化率は38%。町は26集落に分かれており、松峯区は人口520人、高齢化率26%〔R7.12月末現在〕と、島内では最も高齢化率が低く、若い世帯や子どもが多く、育成会や婦人部の活動も積極的に行われている。



### 取組のきっかけ

- シニア人材育成研修で「地域活動の課題」について意見交換した際、「県道まで出るのが遠く、買い物・通院・ごみ捨てが大変」といった意見が出た。
- さらには「デイサービス送迎車を活用した買い物」を半年後に実現させようという目標設定も行い、取り組みを進めていくことになった。

### 取組の目的

- 買い物困難な方への支援
- 交流の場づくり

### これまでの経緯

年・月	出来事
令和6年7月	シニア人材育成推進研修。地域の自慢できることや課題について協議。松峯区は今後の取り組みとして「おためしサロン体験」「デイサービス送迎車を活用した買い物」を設定した。
令和6年9月	取り組みの現状について、1層2層SCから松峯区長へ聞き取り
令和6年10月	令和6年度第1回協議体。7月のシニア人材育成講座の振り返り、現状確認、今後の取り組みについて協議。
	社協の車両を活用し、1回目のお試しお買い物ツアーを実施（無料）。1層2層SC同行。
令和6年11月	シニア人材育成フォローアップ研修開催
令和6年12月	2回目のお試しお買い物ツアー実施（ガソリン代、保険料集金）
令和7年1月	令和6年度第2回協議体。シニア人材育成フォローアップ研修の振り返り、取り組み現状確認、1年を通しての取り組みの感想等、共有。
	3回目のお買い物ツアー実施（1月以降、毎月実施）
令和7年3月	区長の事務連絡会にて、松峯の取り組み・社会福祉協議会の車両貸出事業について紹介。
令和7年4月～	社会福祉協議会で車両貸出事業が開始。松峯区はその事業を活用し本格運行。

### 活動の概要

**【支援内容】**  
ボランティアスタッフが主体となり、社会福祉協議会の車両貸出事業を活用し、買い物支援を実施している。

- 【行き先】松峯区から車で片道10～15分程先にあるスーパーやドラッグストア
- 【頻度】毎月1回
- 【利用料（ガソリン代・保険代）】200円～230円
- 【利用者数】2～3名
- 【ボランティアスタッフ】4名+運転手
- 【その他】買い物に行けない人に関しては、買い物代行を行っている。

**【立ち上げに関わった人・団体】**  
生活支援コーディネーター、役場、社会福祉協議会、区長、ボランティア



### 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

- |  |  |
|--|--|
| <p><b>【行政担当者としての役割】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●SCとの情報共有</li> <li>●シニア人材育成研修会の開催</li> <li>●協議体の開催</li> <li>●他集落区長への周知</li> </ul> | <p><b>【SCとしての役割】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●協議体に向けての区長との事前打ち合わせ</li> <li>●SCの通信誌にて活動紹介</li> </ul> |
|--|--|



### 現時点での到達点（効果・課題など）

- |  |  |
|--|--|
| <p><b>【効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●買い物困難な方への支援ができています。</li> <li>●目的地往復の車内は、遠足のように楽しい雰囲気でおしゃべりが尽きない。買い物だけではなく、区民同士の交流の場となっている。</li> </ul> | <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●現時点では、運転スタッフが一名しかいない。運転スタッフを増やし、交代制で実施していきたい。</li> <li>●ボランティアスタッフも高齢化していくので、後継者を探していきたい。</li> <li>●活動を周知し、参加者やボランティア・運転手を募りたいが、参加者が増えすぎた場合、現状で運営していけるか不安。</li> </ul> |
|--|--|

## 地域の概要



屋久島町全体の人口は11,151人、高齢化率は38%〔R7.12月末現在〕。生活圏域は北部地域11集落（口永良部島含む）、南部地域15集落に分かれている。地域資源が多い地域と少ない地域があり、買い物や移動などの地域課題がある。

## 取組のきっかけ

地域資源の情報をもっと周知し、必要な方へ届けたいという思いから取り組みを始めた。南部地域が令和3年に作成した「屋久島町南部インフォーマルサービス一覧」をベースに、さらに必要な掲載情報は何か、検討していった。

## 取組の目的

町内の地域資源の情報の整理→情報提供→活用

## これまでの経緯

年・月	出来事
令和6年1月	1層2層SC、北部包括支援センター職員と打ち合わせ 島内の介護サービス事業所3カ所のホームヘルパーへ聞き取り
令和6年2月	聞き取りした内容等を参考に、調査先の店舗を検討
令和6年3～4月	調査先の店舗リスト作成、北部地域各店舗へ聞き取り
令和6年9～10月	調査結果の整理、記載事項の検討
令和7年1月	南部地域各店舗へ聞き取り
令和7年3～6月	その他、美容院や有償ボランティアなど電話での聞き取り
令和7年7月	印刷、製本
令和7年8月	配布

## 活動の概要

### 【掲載内容】

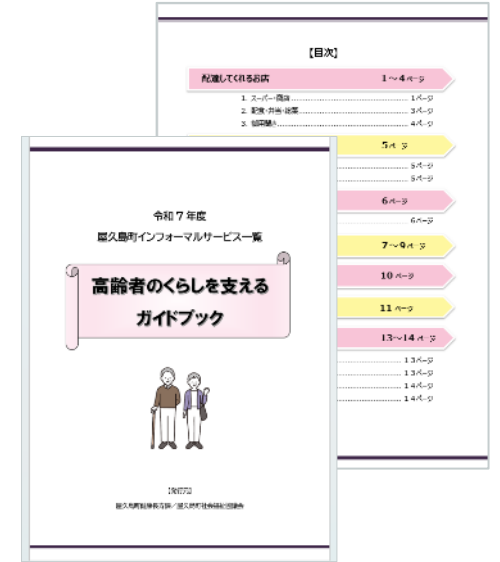
配達してくれるお店（スーパー・商店、配食・弁当・惣菜、御用聞き）、困ったときのサービス（便利屋、福祉タクシー）、その他サービス（出張カット）、集いの場・サロン、地域食堂、有償ボランティア、公的機関（介護予防教室、オレンジカフェ、クローバーの会、相談窓口）等

### 【設置場所・配布先・掲載場所】

設置場所：役場、社会福祉協議会  
 配布先：介護サービス事業所、地域包括支援センター、区長、民生委員、掲載店舗  
 掲載場所：屋久島町ホームページ

### 【作成に関わった人・団体】

生活支援コーディネーター、役場、社会福祉協議会、地域包括支援センター、各店舗



## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

### 【行政担当者としての役割】

- SCとの情報共有
- ケース会議等、課題解決の為の情報の活用

### 【SCとしての役割】

- 各店舗への情報聞き取り調査
- 情報の定期的な更新
- コーディネーター通信や屋久島町ホームページでの紹介

## 現時点での到達点（効果・課題など）

### 【効果】

- ケアプランを作成する際に、住民主体の通りの場の活動日時がわかり、配慮してプランを組むことが出来た。
- ご家族にインフォーマルサービスの説明をする際に、冊子を活用することで伝わりやすかった。

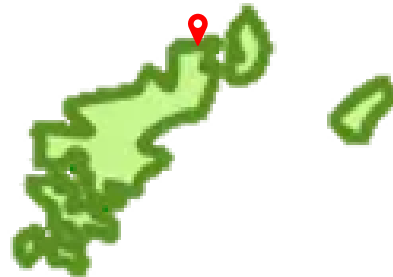
### 【課題】

- ガイドブックに記載しない情報も含め、ニーズに応える為の受け皿を作れるよう、常に地域住民からの情報収集に努めることが必要。
- 定期的に情報を更新し、正確な情報提供を「継続」していく。
- より広い場面で活用されるよう、広報・周知も続ける。

- 生活支援  見守り  協議体
- 買物支援  配達  その他
- 移動支援  居場所づくり

## 地域の概要

人口：161人  
 高齢化率：44.10%  
 生活の中で住民同士の繋がりによる助け合いがみられたり、集落行事がさかんで、子どもから高齢者まで一緒に参加されている。



## 取組のきっかけ

以前から、近隣の地域では見守り活動に取り組まれていたことをきっかけに、住民同士で自分たちの集落でできることを話し合い、見守り・生活支援を行う活動グループが発足し、現在はメンバー25名で活動を行っている。

## 取組の目的

- 高齢者の見守りや生活支援
- 高齢者の外出のきっかけや交流の場づくり
- 次世代と交流の場づくり
- 地域活性化

## これまでの経緯

年・月	出来事
令和2年12月	活動に向けての話し合い
令和3年1月	住民主体で見守り・支え合い活動を行うグループが発足
	毎月1回定例会を開催し、活動報告や困りごとの共有しながら活動している
令和5年4月	活動協力者が新たに4名加入
	ゆらい場の設置
令和6年4月	定期的に毎週金曜日（14時～16時）にゆらい処にて高齢者とお茶会を開催し、交流の場となっている。認知症の方や、男性高齢者の方の参加もあり交流できている。
令和6年4月	以前より取り組んでいる夜間火の用心、パトロールを継続して実施している
令和6,7年8月	80代高齢者宅、14世帯に七夕飾り、飲料水を配布
令和6,7年12月	80代高齢者宅、11世帯に正月用食料品、日用品配布

## 活動の概要

活動内容：生活支援（ゴミ出しや自宅の掃除）、ゆらい場「ゆらい処はまゆう」（毎週金曜日2時から4時迄交流の場として実施）、夜間火の用心、パトロール見守り、次世代との交流イベント、美化活動（公共トイレ掃除）、買い物代行支援



## 取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

### 〔行政担当者としての役割〕

- 地域包括支援センター発行の「どくさだより」にて活動の周知
- 世話焼きさん（地域福祉推進員）との情報共有

### 〔SCとしての役割〕

- 活動状況の把握・情報発信
- 地域が自発的に活動していることの把握・連携と協力体制づくり

## 現時点での到達点（効果・課題など）

### 〔効果〕

- 高齢者とゆらい処でお茶会・交流をすることで外出のきっかけづくりができ、社会参加の場となっている。
- 子どもの下校に合わせて、声掛け、見守りができている。交流イベントの開催で地域に活気が出た。ゆらい処へ男性が参加しやすい雰囲気になった。見守ったり、見守られたり支援活動に繋がった。
- 移住者の交流の場へ積極的に参加、協力体制ができ、人とのつながりができた。

### 〔課題〕

以前からのおつきあいで移動支援等ができていたが、新規での依頼があった場合の今後の課題が予想される。